

助成年度：平成6年度

[所属] 大阪府立大学 工学部
[役職] 教授
[氏名] 細田 龍介 (他計8名)

[課題]

洲本市南部地域における環境特性の把握と環境管理システムの構築

[内容]

1. 本研究の目的

本研究は、大阪湾奥部の停滞性海域の環境改善・創造の目標を設定するために、洲本市南部地域（由良地域）の優れた海域環境の特性および陸海の自然の連続性に見られる特性を把握することにより、①望ましい海域環境モデルを把握するとともに、②Sustainable development を前提とした大阪湾ベイエリアの海陸一体の環境管理システムモデルを構築することを目的としている。

2. 環境特性の把握に関する実態調査結果

環境特性を総合的に把握するため、海域環境、陸域環境、海岸線、集落について実態調査を行った。その結果、洲本市南部地域の環境を以下のように評価することができる。

- ①総合的には望ましい状態に保たれた環境とすることができる。
- ②由良湾内外は良好な海域環境とすることができるが、場所によっては悪化の兆しも見られるので保全の努力を必要とする。
- ③輪鶴羽山系の照葉樹自然林、生石－熊田海岸の藻場およびこの地域における陸－海の連続性は良好な自然環境のモデル地区として保全しなければならない。
- ④自然との共生を基本として築かれた集落・人間活動の歴史の価値は極めて高い。

3. 市民の環境管理・活用に関する考え方と環境管理システム構築への課題

今後の環境管理・活用に関する市民意識を把握するため、全世帯を対象にアンケートを行った。その結果から環境管理システム構築への課題を検討すれば、次のように示される。

- ①貴重な環境であることの認識の共有化が必要
- ②サステナブル・デベロップメントへの具体策提示と参加型による具体化を図る必要
- ③保全・修景と利活用が調和した土地利用計画を立案すべき
- ④環境を活用する新産業の開発も経済的環境の改善のために必要
- ⑤海、山、川との日常的なかかわりを十分に回復すべき（特に子供たちを中心に）
- ⑥環境教育、環境知識の普及の実践が求められる

4. 洲本市南部地域（由良地域）における環境管理システムと由良・生石研究村

由良地域においては、実態調査結果やアンケート調査結果などを踏まえ、次の方向で環境管理システムの構築を行う必要がある。

- ①かつて生活に根ざして存在していた環境を維持・更新するメカニズムを再評価しつつ、生活面や経済面における循環型社会システムを整備する。
- ②海陸一体の総合的な環境管理により、人間活動やそれが展開される様々な空間において自然との共生を図る。

③環境教育・学習を進め、自然環境のモニタリングを継続し、地域社会の各セクターの参加による環境の維持・更新・利活用を促進する。

④大阪湾岸各地域や大学等研究・教育機関との連携・交流により、地域的・広域的環境問題の解決を図るとともに、環境の総合的機能を活用した地域発展を図る。

由良地域においては、上記の方向を実現するために、由良市街地とその周辺および生石・熊田地区の市有地約 100ha を中心に、海域を含む約 1,000ha の区域を、環境管理システムを展開する由良・生石研究村と位置づけ、地域社会の参加、大学等との連携により、環境研究・教育のメッカとして、また望ましい環境を維持・更新し創造していく地域とすることが望まれる。